

資料 I

第21期東村山市公民館運営審議会答申に 向けての中間報告(案)

テーマ

「市民講座等の公民館主催事業に対し30歳代・40歳代の参加を促す方策」について

東村山市立公民館運営審議会

はじめに

令和3年2月に公民館長より第21期公民館運営審議会に対して「市民講座等の公民館主催事業に対し30歳代・40歳代の参加を促す方策」について諮問があった。審議会としては、委員の任期中に十分な調査研究や審議が不可欠であるものの、本年12月より開始しようとする市民講座ボランティアを中心とした令和4年度市民講座のテーマ選定の参考となるよう、これまでの審議会において取りまとめた意見を中心に、答申にむけての中間報告を行うこととした。

東村山市では「東村山市みんなで進めるまちづくり基本条例」に基づき、令和3年4月に策定した「東村山市第5次総合計画」が、市民や行政、まちに関わる全ての人にとっての東村山市版のSDGsであるとの思いを込め、市民が何世代にもわたって、豊かに暮らすことができるまちづくりを進めるため、この計画を推進している。

また、この計画では、「みどり にぎわい いろどり豊かに 笑顔つながる東村山」を将来都市像とし、この実現に向けて「まちの価値の向上」「ひとの活力の向上」「くらしの質の向上」の3つの基本目標と29の施策を掲げている。

基本目標2の「ひとの活力の向上」では、安心して子育てできる環境、地域との連携、多様な学び・文化・スポーツ活動をすることができ、自己表現や交流が図られるなどを目指す姿として、施策15に「文化・生涯学習活動の推進」を示している。

東村山市立公民館運営審議会

1. 東村山市のこれまで

● バットタウンとして発展してきた東村山市

東村山市は、畑の多い農村地域でしたが、多くの住宅建設や、日本全体の人口増加などを背景に、急速に都市化が進みました。都心までのアクセスがよく、豊かな自然に恵まれたバットタウンとして、人口は増え続けてきました。

● 人口減少時代への転換点

ところが、日本全体が平成20年(2008年)をピークに、人口減少局面に突入すると、東村山市も平成24年(2012年)をピークに人口が減少傾向に転じました。働く世代が減り、高齢化が急激に進み、4人に1人が高齢化となるなど、これまでにない事態を迎えています。

2. 今後30年間の東村山市

● 人口減少と高齢化でまちが大きく変わる

このままいくと 30年後(現在20歳の方が50歳になる頃)には、東村山市の人口は 約18%減り、約12.4万人になると推測されています。また、人口の年齢構成は、高齢者が 約26.9%から約40.5%と増える一方で、働く世代の人口は 約61.3%から約50%に減る見込みです。

● 技術の進展が、くらしをより便利に魅力的なものにする可能性もある

ICT(情報通信技術)の進展により、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)など様々な技術開発が進んでおり、完全自動運転による新たな人の移動方法や、生活を支援するロボットの普及、自宅で診察、外国語自動翻訳技術などにより、くらしがより便利に変わっていく可能性があります。

● 施設の老朽化災害のリスク

30年後には、築60年以上の公共施設の割合は 約45%に上る見込みです。今後30年間の首都直下型地震の発生率は 約70%と予想されており、気候変動による豪雨災害の増加も懸念されています。

3. 東村山市の未来に向けて

● 成長を前提としたまちづくりから転換

人口減少・少子高齢化という時代の転換期を迎え、これまでと同じように人口が増え、経済が拡大する成長を前提にまちづくりを進めることは難しくなっています。今、まちづくりの考え方の転換が必要となっています。

● キーワードは、「持続可能」なまちづくり

これからの東村山市で、将来にわたって市民が豊かに暮らし続けるにはどうしたらよいのでしょうか？

社会環境の変化に対応して機能し続ける都市基盤や産業基盤づくり、人生100年時代において支えあい、活躍する人づくり、市民一人ひとりの個性が尊重され、安全・安心に暮らすことができる環境づくりを通じた「持続可能」なまちづくりが重要になります。

また、地球環境の保護や多様な人々の共存、誰一人取り残さない社会の実現を目指すSDGsは、世界共通の目標です。東村山市は、市の未来に向けた発展に取り組むとともに、地球規模の課題にも目を向けてSDGsの達成に貢献します。

● ありたい未来に向けたまちづくり

東村山市は、これまで経験したことのない厳しい状況の中でまちづくりを進めることとなりますが、これを「ピンチ」ではなく「チャンス」と捉え、自ら進化を続けていく姿勢が必要です。

新型コロナウイルス感染症の拡大は私たちの日常を一変させる出来事でしたが、これからもこのような想定外の事態が起こるかもしれません。

そのときどきの社会の変化に柔軟に対応するとともに、ありたい東村山市の未来を描き、その実現に向けて挑戦し続けることが重要となります。

※1～3 「東村山市第5次総合計画」より引用

4. 東村山市立公民館運営審議会これまでの議論の経過

第21期東村山市立公民館運営審議会では、コロナ禍において限られた会議開催条件ではあったが、公民館をはじめとする社会教育や生涯学習活動を取り巻く社会環境が大きく変化するなかで、過去5年間に開催した市民講座等の実績から見た課題や、今後、市民講座などを通じて発信すべき「テーマや取り組み」などについて、委員それぞれの専門的な見地、あるいは日頃から各方面において活動されている経験などから、積極的に意見を申し上げてきたものである。令和4年度市民講座の開催に向けて、市民講座ボランティアを中心とした市民講座のテーマ選定の参考となるよう、これまでの審議会において取りまとめた意見を中心に、以下の内容として答申に向けての中間報告とする。

5. 公民館の現状・課題

公民館は、市民の生涯学習拠点として中心的役割を担っている。また、様々な芸術・伝統文化、社会教育に関する団体や趣味サークルなどが自主的に活動しやすい環境に加えて、多様化する市民ニーズに対応した事業展開並びに柔軟な施設利用を提供できるよう努めるとともに、現在の利用状況を検証し、市民の満足度の向上に取り組んでいくことが必要である。

近年、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言などの発出に伴い、休館や時間短縮を余儀なくされている状況で、市民の社会教育・生涯学習の活動にも大きく影響を及ぼした。また、市民講座に関しては、働き盛りの30歳代・40歳代の参加率は、10%程度に留まっている状況である。

6. なぜ30歳代・40歳代の参加を促す必要があるのか。

近年の公民館主催事業においては、30歳代・40歳代の参加率が低い状況である。参加率の少ない世代をターゲットに絞って、数回でも講座の企画をすることが望まれる。

30歳代・40歳代の参加を促すためには、開催日や時間設定等の工夫が必要である。また、気軽に参加できる雰囲気や情報交換が行える場をつくることは、公民館の大きな役割であり、公民館運営審議会委員と職員も協力し、市民のニーズを聞くことがとても大切である。

中央公民館は 約40年前に開館した。当時は、30歳代・40歳代の方々を中心に公民館運営に積極的に携わっていただいたうえで、現在の公民館がある。今後10年後、20年後を考えたときに、30歳代・40歳代に公民館の魅力を伝えていくことが大切である。また親子で各種事業に参加してもらえるよう環境を整えることが最優先課題と考える。そしてその先にあるのは、公民館の講座で育った子が小学生・中学生になり、公民館を居場所として利用し、その後、大人になり東村山でこれまで、学んだ事を次の世代へ伝承してくれることが理想であり、切れ目のない地域づくりを目指すことがとても大切なことだと考える。今、30歳代・40歳代に参加してもらうことで何に繋がるのかを職員一人一人が考えることが重要である。人を育てる場所が公民館である。

【市民講座等の周知・募集方法など】

地域との連携、協力を得て、公民館に関わりの薄い方々へ情報を発信する。

(保護者の目に触れる)

- 地域や学校との連携
 - ・地域行事にて保護者に声をかける。(PTA等への協力)
 - ・ 青少対の会報誌、へ掲載依頼
 - ・ 学校だより、へ掲載依頼
- 公民館と関わりのない世代への周知
 - ・チラシ等に QR コードの活用
 - ・携帯 SNS の活用
- 地域のなかで活動している方々に参加協力を依頼(特に父親へアプローチ)

【講座や事業の内容など】

(子育て世代・共働き世代の方々が興味を持つような講座等を企画する。)

- 子育てパパママの勉強会
- 母親同士が情報交換できるような講座
- 一週間の作り置き献立メニュー講座
- 参加型(自分たちで作り上げる)
- 30 歳代・40歳代の関心のある内容(例 コロナ禍での悩み等自由に意見する)
- 男の料理教室

(親と子が一緒に参加できる講座や、安心して子どもを預けられる環境をつくる。)

- 親子で参加できる手芸講座や料理教室
- 育休を取得している母親が参加できる講座(保育室・和室等活用)
- 親が講座に参加している間に、子ども向けのビデオ上映会

(気軽に参加できる環境をつくる)

- 次回の参加につながるような雰囲気づくり
- 誰もが安心して発言できる環境
- 講座に参加した人同士が話し合える時間の設定

(継続して実施することで、認知度が高まり定着につながる。)

- レンジャー体験の継続
- 子育て世代の勉強会・情報交換・異世代との交流

(学校や地域による公民館施設の活用をすすめる。)

- 中学生による部活動の発表の場として公民館を活用
- 大人な親子で学習する

【開催日時など】

子育て世代・共働き世代の方々が参加しやすい日程を設定する。

- 土曜日・日曜日など休日開催
- 仕事を終えてから参加できる夜間開催